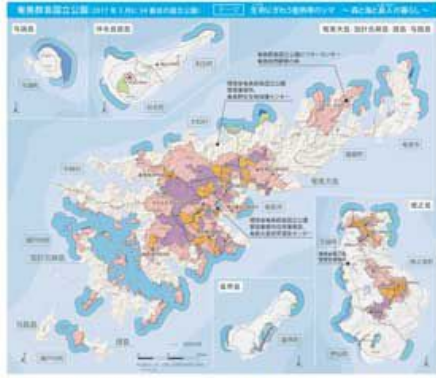


奄美群島
国立公園
自然環境
アトラス
— 2023 —

奄美の島々には、豊かで多様な自然環境と、固有で希少な動植物からなる生態系、人と自然のかかわりから生まれた文化
景観が残され、島ごとに個性的で魅力ある自然や歴史、暮らしを感じる体験を楽しむことができます。
「奄美群島国立公園自然環境アトラス」では、生きものや人の暮らしの基盤となる自然環境の情報を中心に、土地利用や
保護地域制度などの人の営み、人と自然のかかわりによる環境文化の情報について、24枚の地図に整理しました。地図を
眺めながら奄美群島の豊かな自然や文化に思いをはせ、その面白さに触れていただけたら幸いです。
ここでは、アトラスの一部をご紹介します。

増澤 直、今野 悠美、五反田 千晶、荒尾 章子、佐々木 道子、鈴木 美穂（株式会社地域環境計画）

Map 1 奄美群島の立地を把握する



奄美群島国立公園は、世界遺産に登録された地域を含み、多様な生態系について科学的データに基づいた順応的管理を行う「生態系管理」、人と自然のかかわりの中で形成された風景や風土を国立公園の価値として位置づけた「環境文化」、という従来の国立公園には無い新しい考えに基づいて保護管理されています。

Map 2 奄美群島の立地を把握する



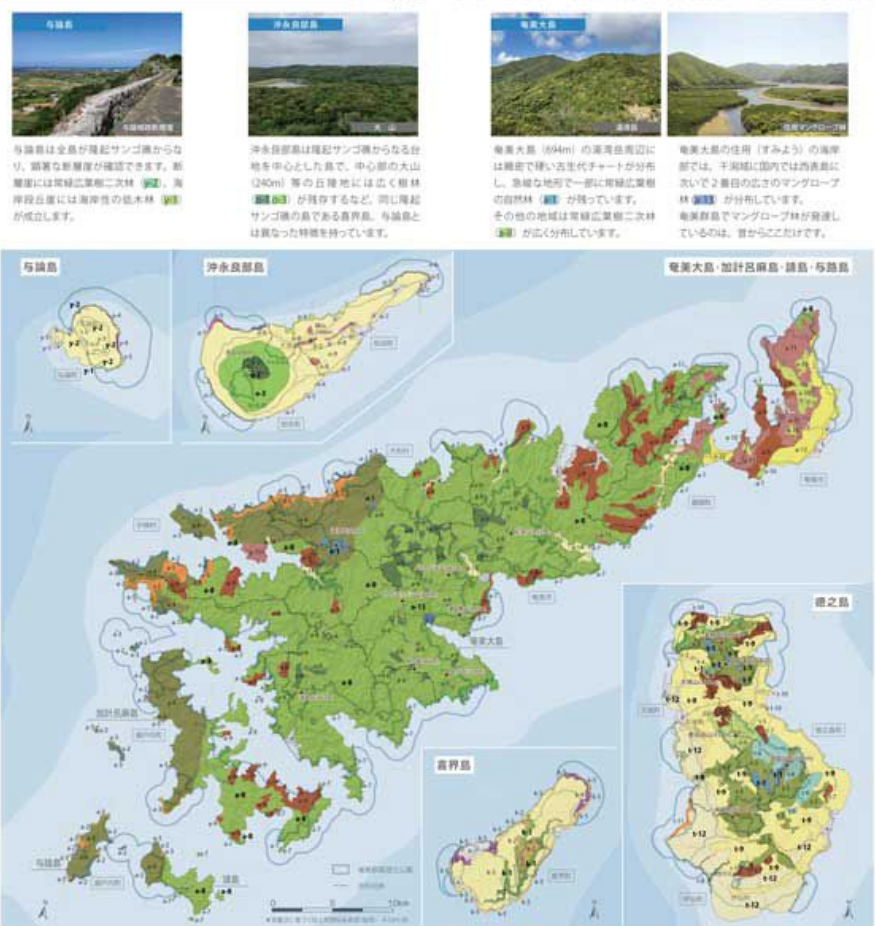
奄美群島が位置する琉球列島は、地殻変動による大陸からの分断や気候変動による海面変化で周辺の島々との分離・結合を繰り返し形成されました。また、奄美群島の近海には冬でも20℃を保つ暖流の黒潮が流れ、季節風（モンスーン）の影響により、一般に乾燥帯の多い亜熱帯地域にありながら1年を通じて降水量の多い、温暖多湿な海洋性気候となっています。こうした立地や成り立ちの背景から、奄美群島を含む琉球列島には、多くの生物の分布の境界となっている生物の分布境界線が認められ、多様な固有の生物相が形成され生物多様性豊かな地域となっています。

Map 17 アマミノクロウサギの分布の特徴



アマミノクロウサギは奄美大島と徳之島にのみ分布する固有種です。森林性で、地形の険しい奄美大島では山地での確認が多く、徳之島では山地だけでなく、山地から離れた海岸近くでも確認されています。保全活動によって生息数は回復していますが、近年、交通事故（ロードキル）の増加が問題となっています。Mapからは、山地の林道だけでなく、スピードが出やすい国道や県道でも交通事故が多数発生していることが分かります。

Map 10 地域の生態系の特徴を総合的に把握する（地生態学図）



項目	内容
1. 奄美大島	奄美大島は、奄美群島の最大の島で、面積は約1,994km ² 、人口は約10万人。島の中心部には、奄美大山地があり、多くの山地と丘陵地帯が広がっている。島の周囲には、多くの島嶼と海峡が点在している。
2. 徳之島	徳之島は、奄美群島の最大の島で、面積は約1,994km ² 、人口は約10万人。島の中心部には、徳之山地があり、多くの山地と丘陵地帯が広がっている。島の周囲には、多くの島嶼と海峡が点在している。
3. 奄美群島	奄美群島は、奄美大島と徳之島を中心に、多くの島嶼と海峡からなる島群である。島の中心部には、奄美大山地と徳之山地があり、多くの山地と丘陵地帯が広がっている。島の周囲には、多くの島嶼と海峡が点在している。



地生態学図とは、生態系を構成する自然環境要素（地質、地形、気候、土壌、水系、植生など）の成り立ちや主に垂直的な相互関係（地形と地質、地形と植生など）をみながら、生態系を統合的に捉えようとする地生態学（geoeology）の考えに基づいて、地域を類型化して地図としたものです。地域を構成する様々な自然環境や景観タイプの分布と特徴を説明する主眼図となっています。

Map 11, 12 土地利用の変化



土地利用は約100mメッシュ毎に整理されたデータ（国土数値地図土地利用細分メッシュデータ）を用いています。ここでは徳之島を例に土地利用の変遷を見ていきます。

